

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 公立ほこだて未来大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人公立ほこだて未来大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|-----------|-------------|-----------|-----------------------|---------------------|----------|----|-------------|------|
| | | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | | |
| システム情報科学部 | 情報アーキテクチャ学科 | 夜・通信 | 18 | 10 | 54 | 82 | 13 | |
| | 複雑系知能学科 | 夜・通信 | | | 28 | 56 | 13 | |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・本学公式ホームページに、学生に配付しているシラバスのPDFデータを公表しており、その中に該当する科目の一覧表を掲載している。 https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/2022_ug_syllabus.pdf ・本学公式ホームページにて、シラバスを検索するページを設け、キーワードの項目に「実務」と入力して検索すると、該当科目が抽出されるよう設定している。 https://student.fun.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 公立ほこだて未来大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人公立ほこだて未来大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/yakuinmeibo2022.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|---------------------|------------------------|---------------------|
| 常勤 | 函館市役所 企画部次長 | R4. 4. 1 ～R5. 3. 31 | 労務・法務・財務 |
| 非常勤 | 北海道大学 電子科学研究所 教授 | R4. 4. 1 ～R5. 3. 31 | 組織運営体制への チェック機能 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 公立ほこだて未来大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人公立ほこだて未来大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><授業計画書(シラバス)の作成過程> シラバスの作成にあたっては、“シラバス書き方ガイド”に基づき、各科目の担当教員がシラバス登録システムに入力後、教務委員会が内容を精査したうえで作成している。</p> <p><授業計画書の作成、公表時期> シラバスにはすべての科目について「配当年次・開講時期・単位数・担当教員」「授業概要」「キーワード」「到達目標」「授業計画」「事前・事後の学習」「成績の評価方法」「教科書・参考書」「履修上の注意」を明記しており、上記の作成過程を経て毎年内容を更新し、4月に公表している。</p> | |
| <p>授業計画書の公表方法</p> | <p>https://student.fun.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/2022_ug_syllabus.pdf</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p><成績の評価、判定基準方法> 成績の評価方法やその配分については、シラバスやLMSなどにあらかじめ明記し、また、各評価の基準については、学生便覧に記載するほか、年度当初のオリエンテーションで学生に事前に説明しているなど、評価方法等の透明性を確保している。</p> <p><評価の厳格かつ適正な実施> 学修成果の評価は、シラバスに記述された成績の評価方法等に従って科目ごとに担当教員が判定を行っている。なお、不合格となる学生については、チェックシートにその原因を記入して事務局へ提出し、誤りのないことを確認しているなど、厳格に評価を実施している。 また、成績評価に対する問合せ窓口を全学生へ説明し、成績の正確性についても確保している。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>〈GPA等の客観的な指標の具体的な内容〉 授業に対する学生の意識を高め、学生の学習および学習指導に役立てることを目的に、成績評価の客観的指標としてGPA制度を導入している。 GPAは、履修した各科目のGP (grade points) に、その科目の単位数を掛けた数値の総和を総単位数で割った数値であり、本学では、学期ごとに算出する学期GPAと、在学中の全期間を通算して算出する通算GPAの2種類のGPAを算出している。</p> <p>〈客観的な指標の適切な実施状況〉 GPAの算出方法は学生便覧に明記しているほか、Webを通じ学内外に公開している。 算出した学期GPAと通算GPAは個々の学生に通知しているほか、各学年のGPA分布図を作成し、学内において公開している。また、GPAが一定値を下回った学生については、担任教員と面談し修学指導を行っている。</p> | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>https://www.fun.ac.jp/fact#1-3 https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/GPA2.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>〈卒業認定に関する方針の策定と公開〉 卒業認定に関する方針はディプロマ・ポリシーとして平成28年度に策定し、Webで公開している。ディプロマ・ポリシー達成のために構成されたカリキュラムの単位取得状況に基づいて卒業認定を行う。</p> <p>〈卒業の認定に関する方針の具体的な内容〉 卒業の認定にあたっては、「システム情報科学に関する高い専門能力」「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」の5つの観点において、所定の成績を修めた学生に学士の学位を授与している。</p> <p>〈卒業の認定に関する方針の適切な実施状況〉 卒業の要件として、必修科目の単位を取得し、総取得単位数130単位以上、およびコースごと・科目群ごとに定めた必要単位数以上を取得していることとしており、これらを満たした学生について、教授会において卒業認定を行っている。</p> | |
| <p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p> | <p>https://www.fun.ac.jp/diploma-policy https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/R02_gs_gakushuseika.pdf</p> |

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 公立はこだて未来大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人公立はこだて未来大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2021/11/R2zaimusyohyou.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2021/11/R2zaimusyohyou.pdf |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2021/07/R2jigyohoukoku.pdf |
| 監事による監査報告(書) | https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2021/07/R2kansahoukoku.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|---|
| 単年度計画(名称:令和4年度公立大学法人はこだて未来大学年度計画 対象年度:令和4年度) |
| 公表方法: https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/R4keikaku.pdf |
| 中長期計画(名称:公立大学法人公立はこだて未来大学 第3期中期計画 対象年度:令和2年度から令和7年度の6年間) |
| 公表方法: https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/20200205keikaku.pdf |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法: https://www.fun.ac.jp/fact#1-2 https://www.fun.ac.jp/fact#1-3 |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|--|
| 公表方法: https://www.fun.ac.jp/fact#1-2 (https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/hyoukakekka-H30.pdf) |
|--|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 システム情報科学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fun.ac.jp/advanced-education) |
| (概要) 公立はこだて未来大学は、「人間」と「科学」が調和した社会の形成を願い、深い知性と豊かな人間性を備えた創造性の高い人材を育成するとともに、知的・文化的・国際的な交流拠点として地域社会と連携し、学術・文化・産業の振興に貢献することを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fun.ac.jp/diploma-policy) |
| (概要) 公立はこだて未来大学の使命は、人間と科学が調和した社会のために、卓越した学びの共同体として、分野を越えた協働を通じて社会を支える多様な情報システムの革新的発展を先導するとともに、広く柔軟な視野を備え、地域と世界のために未来社会を創出する力を備えた人材を輩出することである。 この使命のもと、「システム情報科学に関する高い専門能力」「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」の 5 つの観点において、所定の成績を修めた学生に学士の学位を授与する。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fun.ac.jp/curriculum-policy) |
| (概要) ディプロマ・ポリシーが掲げた「システム情報科学に関する高い専門能力」「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」を養うには、1 年次から 4 年次にかけて段階的に、かつ各科目群に特化したそれぞれの文脈の中で学び続けることが重要である。 1 年次から 2 年次における学部共通専門科目群、コミュニケーション科目群、教養基礎科目群では、「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」の重要性を知り、1 年次・2 年次のレベルにあった学習目標・学習内容においてこれらを学習する。これにより、2 年次以降の各コースで専門的に学ぶために必要となる基礎的な知識やスキルを身につける。 2 年次以降は、各コースの専門科目群において「システム情報科学に関する高い専門能力」を身につけるとともに、システム情報科学実習（プロジェクト学習）や卒業研究などの実践の場で「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」を深めていく。各科目群のカリキュラムの実施にあたっては、各科目の目標にあわせて講義、演習・実習、討論、フィールドワーク等を組み合わせることにより、学生の主体的な学びを促進させる。各科目の目標に対する到達状況を評価し、合格したものには所定の単位を与える。 |

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.fun.ac.jp/admission-policy>）

（概要）

公立はこだて未来大学は「オープンスペース・オープンマインド」をモットーとし、システム情報科学に関わる、高い専門能力、問題探究力・構想力、情報表現能力・チームワーク力、学び続ける力、専門家としての人間性という5つの素養を育むことを目標としている。

この目標に向けて、教養基礎科目群、コミュニケーション科目群、コース共通専門科目群、各コースの専門科目群を設けて知識と技術、解決力、コミュニケーション力を身につけるとともに、プロジェクト学習をはじめとする演習・実習、討論、フィールドワーク等を通じて、学生の主体的な学びの姿勢を育む。そして学部教育の集大成として、卒業論文を執筆し発表する。

そのため、次のような人を求める。

- ・本学で学ぼうと必要となる学力を備えている人
- ・システム情報科学分野に強い関心をもっている人
- ・計算論的思考力を習得し、情報論的社会観を備えて、未来に貢献しようとする意欲をもっている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.fun.ac.jp/fact#1-3>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|--|--------|--|-----|----|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 5人 | — | | | | | 5人 |
| システム情報科学部 | — | 45人 | 22人 | 人 | 人 | 人 | 67人 |
| | — | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| | | 6人 | | | | | 6人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法： https://www.fun.ac.jp/faculty https://fun.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&pcviewer_flag=1&lang=japanese | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| 大学の実践的教育方法の改善や学生のメタ学習スキル育成を目的とした、学内特別研究費の教育方法研究カテゴリーの発表会を開催している。地域連携型教育、大学連携型教育、専門教育、英語教育など各領域の学習方法の評価・開発の充実を図り、成果発表会を学内で開催することで、研究成果を共有し広く還元する意識の醸成に努め、教職員に向けてのファカルティ・ディベロップメントの機会として活用している。ほか、北海道地区FD・SD推進協議会主催の各種研修等を専任教員が受講している。 | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| システム情報科学部 | 240人 | 241人 | 100.4% | 960人 | 1,066人 | 108.8% | 若干人 | 7人 |
| | 人 | 人 | % | 人 | 人 | % | 人 | 人 |
| 合計 | 240人 | 241人 | 100.4% | 960人 | 1,066人 | 108.8% | 若干人 | 7人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|----------------------|----------------|----------------|-------------------|---------------|
| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| システム情報科学部 | 227人 (100%) | 88人 (38.7%) | 125人 (55.1%) | 14人 (6.2%) |
| 合計 | 227人 (100%) | 88人 (38.7%) | 125人 (55.1%) | 14人 (6.2%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-----------------|------------------|-----------------|----------------|----------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| システム情報 科学部 | 255 人 (100%) | 172 人 (67.5%) | 65 人 (25.5%) | 18 人 (7.1%) | () 人 () % |
| | 人 (100%) | 人 () % | 人 () % | 人 () % | 人 () % |
| 合計 | 255 人 (100%) | 172 人 (67.5%) | 65 人 (25.5%) | 18 人 (7.1%) | 人 () % |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画等については、授業計画（シラバス）を作成し、公表している。</p> <p>シラバスでは、すべての科目について「配当年次・開講時期・単位数・担当教員」「授業概要」「キーワード」「到達目標」「授業計画」「事前・事後の学習」「成績の評価方法」「教科書・参考書」「履修上の注意」を明記している。</p> |
|---|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| <p>(概要)</p> <p>本学の履修規程に定める成績の判定基準に基づき、各科目の目標に対する学生の到達状況を評価しており、卒業の認定にあたっては、本学が掲げるディプロマ・ポリシーの 5 つの観点（「システム情報科学に関する高い専門知識」「研究的態度を支える問題探求力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」）において所定の成績（130 単位以上）を修めた学生に対し、学士の学位を授与している。</p> | | | | |
|---|-------------|---|-------------------------|-----------------------|
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる 単位数 | G P A 制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
| システム情報科学 部 | 情報アーキテクチャ学科 | 130 単位 | 有 | 24 単位 |
| | 複雑系知能学科 | 130 単位 | 有 | 24 単位 |
| G P A の活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： https://www.fun.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/GPA2.pdf | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法： https://www.fun.ac.jp/ | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| 公表方法： https://www.fun.ac.jp/fact#1-3 |
|---|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考(任意 記載事項) |
|---------------|-------------|-------------|---------------------------------|-----|----------------|
| システム情報 科学部 | 情報アーキテクチャ学科 | 535,800 円 | 310,000 円 (渡島檜山管内 226,000 円) | 円 | |
| | 複雑系知能学科 | 535,800 円 | 310,000 円 (渡島檜山管内 226,000 円) | 円 | |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) ・オリエンテーションの開催(4月) ・クラス担任等による修学支援(通年) |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (1)学部3年生・修士1年生および学部2年生(後期)向けの就職支援講座キャリアガイダンスの実施(2)大学主催による企業合同説明会の実施(3)資格取得支援(免除講習・修了試験)の実施(4)インターンシップ・推薦書のとりまとめ(5)履歴書・エントリーシート添削および模擬面接の提供(6)学生用ポータルサイトの設置(7)進路面談の実施 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) ・定期健康診断の実施(4月～11月) ・医務室の運営(通年) ・学生相談室の開設(通年) |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|--|
| 公表方法 : https://www.fun.ac.jp/fact#1-3 |
|--|